

審査員奨励賞

丸森中学校 3年 目黒 羽那

表題「あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。」

書籍名「あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。」

特攻隊。第二次世界大戦のときに爆弾を積んだ飛行機に乗り、自分の体ごと敵に突っ込んでいった部隊。私は、この本を読んで初めてそれを知りました。

日常生活全てにイライラする百合。ある日、母親とケンカし、家を飛び出し、目を覚ますと戦時中の日本。そこで百合と出会い、百合を変えたのは特攻隊員の彰でした。

私が印象に残っているのは、彰達の出撃の時です。百合は、本当は彰達の特攻隊の見送りに行くつもりはありませんでした。しかし、ある手紙を百合は見つけてしまったのです。それは、彰から百合への手紙。必死に基地へ走り、必死に彰の名前を叫びました。百合の姿に気づいた彰は百合へ何か投げました。それは、美しく花開い

た百合。これは、彰から百合へのメッセージだったのではないかと私は考えました。

私はこの本を読んで、戦時中は理不尽なことも誰もがあたり前だと思っていることが不思議でした。若い男子が戦地へ行くこと、女性や子どもは工場で働くこと、戦争に関われることを誇りに思うこと。すべてをあたり前と思うのは、百合と同じくおかしいと思いました。これは、二度とあつてはならない事です。

今の私達は、とても幸せです。空襲や食料不足に苦しむことがなく、毎日、学校に通うことができる。夜も何にもおびえることなく、ぐっすり眠れる。これは戦時中の人々ができなかつたことです。今の時代は、幸せで恵まれています。戦争のことを絶えず語り継ぎ、戦争で理不尽に殺されてしまった人達の方も一生懸命生きることで、私達にできる最大限のことだと思えます。